九品仏自治会だより

http://setagaya-chousouren.org/　トップ→町会・自治会一覧

発行者　九品仏自治会
会長　横山　昭夫
奥沢 8-7-4 (3701-7558)
発行日　2011.7.20.　VOL.148

熱中症にご用心

熱中症は激しい運動や炎天下での長時間の作業だけでなく、室内でもかかります。特に高齢者や、体温の調整機能が十分に発達していないこどもは注意が必要です。

高齢者の注意点

熱中症患者のおよそ半数は高齢者です。高齢者は暑さや水分不足に対する体の調整機能も低下しています。

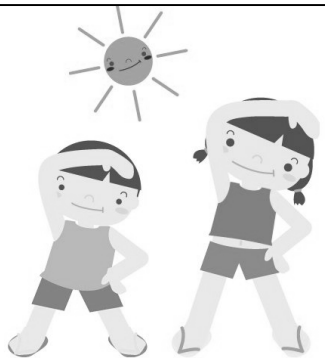
喉が渇かなくても、時間を決めてこまめに水分を補給しましょう。
就寝前には水分を補給しましょう。
扇風機やエアコンを使って室温調節をしましょう

こどもの注意点

こどもは発汗の機能が未発達で体温が上昇しやすくなっています。地面に近いほど気温が高くなるので、こどもは特に注意が必要です。

こどもを十分に観察しましょう。(ベビーカーでの外出時は特に注意して下さい。)
服装を選びましょう。
水をこまめに飲ませましょう。
短時間でも、車内にこどもを残さないようにしましょう。

(世田谷区ホームページより)



カレンダー

7月
22(金)～31(日) ラジオ体操会
30(土) 親子花火大会

8月
4(木)8(月)9(火)10(水)胃癌大腸癌検診
5(金)6(土) 鷺草展 (九品仏まちづくりセンター2 階)
6(金)7(土) ふるさと区民まつり(馬事公苑)
9(火) 定例理事会

8 月のふれあい会はお休みです

次回は 9 月 13 日(火)　1 時～3 時
簡単な手芸を予定しています

日赤募金の集計

皆様から寄せられた日赤社資・募金は、
1293 件 875,800 円となりました。
ご協力ありがとうございました。

社会福祉協議会の会員募集お知らせ

社会福祉協議会の会費は、地域支え合い活動の子育てサロン、ミニデイやふれあいサービスを始め地域の福祉活動に使われています。自治会からも拠出していますが、一層のご協力を頂ければ幸甚です。

19 年度から九品仏地区社協が活動を始めました。この地区で集められた会費の半分が、その活動財源に充てられます。

7 月から 8 月にかけて、地域の協力員(民生委員など)が、会員の募集に伺いますのでご協力のほどお願い申し上げます。
(別紙九品仏地区社協だよりをご覧ください)

回覧															

裏面あり「ふれあい会だより」「回覧ノートから」

ふれあい会だより

７月のふれあい会は、４月「九品仏のお花見」５月「浄真寺の巨樹・古木を見てみよう」に続き、「九品仏をもっと知ろう・あなたの町の昔の話」をテーマに、九品仏に 70 年以上お住まいの４人の方々に語っていただきました。

まずは浄真寺の昔の話から始まりました。
参道界隈にあった門前六軒が、交替で浄真寺の開祖珂碩上人の座像を担いで、今の調布あたりまで５日ほど掛けて巡行していたこと。
戦時中、陸軍の訓練の場でもあったこと。戦後は映画テレビのロケ地としてたびたび画面に登場したこと。奇異なこととしてキリスト教系の私立学校が校舎再建中、浄真寺の別棟を借りて授業を行っていたことなど。

九品仏商店街の移り変わりでは、昭和 18・19 年当時の商店街の様子を地図にし、話していただきました。
当時は物売りがいろいろと来て、朝一番は納豆売り、イワシ売りの売り声はイワヒコと聞こえました、と声色まじりのお話。
商店街で現在も続けられている店は数軒と少なくなりました。

また、こんな話もありました。九品仏が戦災を免れたのは、現在の田園調布雙葉学園の処に、外国人の収容施設があったからではないかと。

一昨年創立 130 周年を迎えた八幡小学校の懐かしい話もあり、あっという間の２時間でした。
お話いただいた４人の皆様ありがとうございました。

自治会回覧ノートから

●当時私は子供と二子玉川の最新の対策を備えた百貨店の中に居て、ビル全体が大きく揺れる中、非常階段を外へと急ぎました。駅構内から退去させられる人で溢れる外では、帰路を駅員さんに確認したり、繋がらない携帯電話を片手に不安そうにしているお年寄りや、小学生、赤ちゃんを抱いたお母さんと弱者ばかりに目が行きました。
思いもかけず被害に遭った時にパニックに陥る怖さが今も忘れられません。
被害地の方が,体調を崩されたり,こらえ切れない怒りを訪問した政治家に訴えられるのも本当によく分かります。本当に怖かったですから。
実際には予定通り出来なくても、日頃の備えと、心構えをして、「今自分に出来る事をやる」をモットーに落ち着きを取り戻したいと思います。
回覧ノートで皆様のお考えを伺えてよかったです。ありがとうございました。

８丁目 C さん

●高島屋の婦人服売り場で地震に遭いました。
マネキンが倒れ、大きなガラスに囲まれた店内で皆その場に座り込み恐怖に怯えるだけでした。
しかし、店員さんの「みんなで輪になりましょう！」の一声で、知らない者同志、輪になってしゃがみました。皆で励まし合いながら、揺れが治まるのを待ちました。
人の温もりがこんなにも安心感を与えるものかと実感しました。
主人の両親は高齢で茨城県水戸市で二人暮らしです。
幸い倒壊はありませんでしたが、ライフラインが全て途絶えてしまったそうです。
直ぐにでも助けに行きたかったのですが交通機関が遮断していて、東京で心配するのみでした。しかし、ご近所の方々が助け合い、温かい食べ物を頂けたそうです。
今回の震災で、人の温もり、互いに声を掛け合い協力することが、大きな力に変わることを痛感しました。奥沢の地でも実現出来たらと思います。

８丁目 D さん

（被災された方々に対する哀悼とお見舞いの言葉は省かせて頂いております。）